

日本最古の湿地性貝塚である東名遺跡（約8,000年前、縄文時代早期）について、将来に渡って保存活用していくため、現在、『東名遺跡整備基本計画』の策定作業が進められており、今後、この計画に基づいて、史跡や周辺の整備等、様々な取り組みが行われる予定です。

そこで、遺跡での新たな楽しみやイベントなど、より有効な活用方法について考えるワークショップが下記の内容で開催されました。

東名遺跡が市民をはじめとした多くの人々に愛され活用される遺跡にしていくための様々な意見交換が行われました。

当フォーラムからは下記の3名が参加しました。

参加者：岩尾理事・大宅理事・古賀事務局長

ー東名遺跡の将来に向けた保存と活用のあり方を考えるワークショップー

【開催日時】

第1回令和元年9月28日（土）

13:30～16:00

第2回令和元年10月5日（土）

13:30～16:00

【開催場所】

東名縄文館

（佐賀市金立町千布/巨勢川調整池内）

※第1・2回とも同じ

【プログラム】

■第1回「東名遺跡の歴史・環境資源の現状を知る」

○東名遺跡の保存活用の経緯と現状を知る

《これまでの取り組みについて説明します》

○先進事例の保存活用の取り組みを知る

《吉野ヶ里遺跡など先進地の取り組みを学びます》

○東名遺跡の将来について語り合う

《東名遺跡と先進事例の現状を題材に、遺跡の将来像について考えます》

■第2回「東名遺跡の活用方法と市民の取り組みについて考える」

○東名遺跡の活用方法について考える

《現地確認を踏まえ、東名遺跡の活用方法について考えます》

○市民の取り組みについて考える

《東名遺跡の活用について、市民等が参画できる取り組みについて考えます》

【参加者】約30名



【主催者】

「東名遺跡の将来に向けた保存と活用のあり方を考えるワークショップ」事務局
株式会社プレック研究所 九州事務所
〒810-0041福岡県福岡市中央区大名2-4-19
TEL : 092 (771) 5211 FAX : 092 (771) 5330



ワークショップの様子